

教養プロジェクト

01155069

永井絵里華

1. フランツ・リスト 「ラカンパネラ」
2. ドボルザーク 「新世界より」
3. セルゲイ・ラフマニノフ 「ピアノ協奏曲二番」
4. フランツ・シューベルト 「交響曲第七番未完成」
5. ジョージ・ガーシュイン 「パリのアメリカ人」
6. リムスキー・コルサコフ 「熊蜂の飛行」
7. クロード・ドビュッシー 「月の光」
8. チャイコフスキー 「くるみ割り人形」
9. ヨハネス・ブラームス 「大学祝典序曲」

ショスタコーヴィチ

▶ 1906 – 1975

▶ ロシア（ソビエト連邦）

✓ 交響曲第五番「革命」第四楽章

▶ プラウダ批判

1936年に歌劇『ムツェンスク郡のマクベス夫人』とバレエ『明るい小川』が、ソヴィエト共産党機関紙『プラウダ』で批判される

▶ 交響曲第九番

- 独ソ戦と第二次世界大戦の終結の年に発表
- 第九番の交響曲はベートーヴェンなど大作曲家が完成できなかったことから、とても重要な意味がある

➡ しかし、期待を裏切り簡素で明瞭なものだったために反省を求められた

シヨスタコーヴィチ交響曲第10番

▶ 交響曲第10番

- 反省のため、8年間意識的に交響曲を書けなかった後、スターリンの死後すぐに書き始められた



「スターリン体制下におけるソ連民衆の苦しみ」となんらかの関係があるのではないかという説

音楽的署名

▶ ド レ ミ ファ ソ ラ シ
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
C D E F G A H

▶ Dmitri SCHostakovitch

↓ ↓ ↓
レ Es= ミ ♭ ド シ



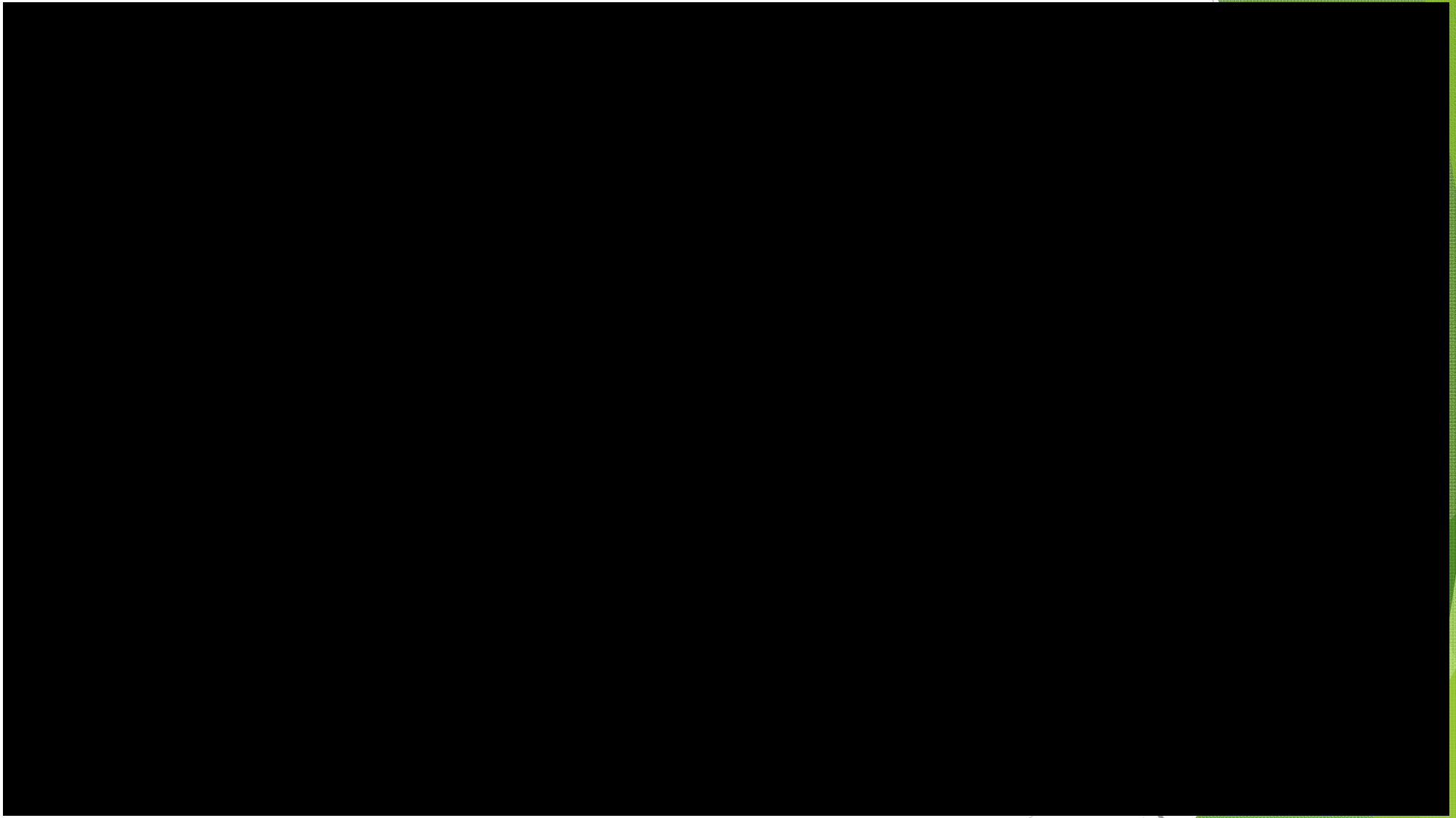
ショスタコーヴィチ交響曲第10番

▶交響曲第九番

- 第二楽章はスターリンの肖像と言われている
- 第四楽章「DSCH」の最強奏が第二楽章のテーマを打ち切るところがある。

➡ いままでさんざん自分を苦しめてきたスターリンに自分が勝利したという宣言？





ショスタコーヴィチ交響曲第10番

▶ 交響曲第九番

- 第二楽章はスターリンの肖像と言われている
- 第四楽章「DSCH」の最強奏が第二楽章のテーマを打ち切るところがある。

➡ いままでさんざん自分を苦しめてきたスターリンに自分が勝利したという宣言？

